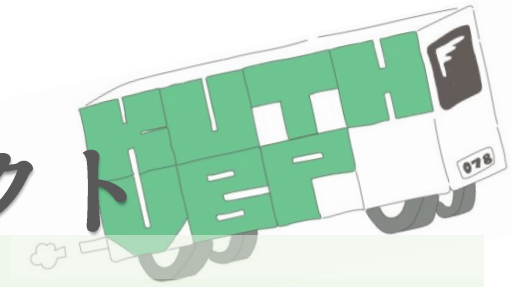
神戸大学
東北ボランティアバスプロジェクト



団体概要

神戸大学東北ボランティアバスプロジェクトは、神戸大学に籍を置く、学生主体の被災地ボランティア団体です。2011年5月に活動を開始し、延べ1700人以上の学生とともに57回の派遣活動を実施してきました。震災当初は岩手県内陸にある遠野市に拠点を置き、津波による甚大な被害を受けた沿岸部にて、避難所での足湯活動、公共施設での整地等を行いました。その後は復興の形態変化を背景に、活動拠点を沿岸部に移しました。地域コミュニティ形成を目的とし、陸前高田市・釜石市・大槌町・山田町を中心として、住民の方々を対象に足湯・手芸・お茶会活動を行っています。また、神戸でも写真展や活動報告会などを開催し、現地の状況や魅力、私たちの活動について発信しています。

近年のコミュニティ支援活動

震災から10年が経ち、例えば住居の面では仮設住宅やみなし仮設などの仮の住まいから、公営住宅や自力再建など、恒久的な住まいへの移動が進むなど、10年前とは大きく環境が変わっているのが現状です。

当団体では2017年頃より、そうした暮らしの変化の中で生まれた、コミュニティでの新たな課題に直面している住民さんと地域にとってよりよいコミュニティづくりのお手伝いができるよう、活動を行ってきました。学生が住民さんの手を揉み、ゆったりとした時間を共有しながら一対一で交流する「足湯活動」や、学生と住民さんが地域の集会所で集まってお話しするイベントの「お茶っこ(お茶会）活動」、学生が住民さんのお宅を訪ね、イベントのお誘いをする中で現在の困りごとを教えてもらう「戸別訪問」活動など、人と人との交流の場作りやその中で生まれる新たなニーズの発見と解決を大切にしてきました。

コロナ禍以後の活動

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、現地での活動が難しくなりました。そのような中、遠く離れた神戸からも活動を続けてきました。

■ オンライン写真展

コロナ禍で自粛生活が続き、住民さん同士でさえ中々出会えない中で、住民さん同士の交流の場をなんとか作りたいとの思いから、「日々のときめき写真展」を開催しました。カメラを現地へ郵送し、そこで住民さんに撮影していただいた写真を神戸で現像して飾り付け、再び現地へ郵送して公民館で写真展を開催していただきました。写真とともに神戸大学生へのコメントや思い出を書いてくださる住民の方々もおり、現地に行けずとも東北との繋がりが感じられました。

■ ハーバリウムキットの贈り物

コロナ禍以前に実施していたお茶会活動では、ステンドグラスなど簡単なクラフト作りを行っていました。コロナ禍で現地のお茶会が開催できない状況の中、お茶会活動の再開を楽しみにしてほしい、という思いから、以前のお茶会活動で人気であったハーバリウムの作成キットを現地に郵送し、エールを届けました。学生とのつながりを感じてもらうためにも、学生が出演するハーバリウムの作り方動画も撮影しました。

■ 「とうほくこよみのよぶね」制作ボランティア

和紙で作られた灯籠を海に浮かべるこのアートイベントは、東日本大震災で亡くなった方の鎮魂を目的としたイベントであり、発災直後から東北の各地で行なわれてきました。「とうほくこよみのよぶね」は岐阜県、長良川で開催される「こよみのよぶね」を模したもので、被災地への支援として岐阜の方々が東北版に転用し始められたイベントです。現在も毎年岐阜のボランティアの方々が現地に赴き、開催しています。神戸大学生も2021年3月11日に現地（釜石市）へ赴き、「とうほくのこよみのよぶね」のお手伝いをしました。

2日間にわたる制作活動の中で、長年イベントに携わっている現地の住民さんや高校生と交流し、コロナ禍での状況の変化や、震災から10年を迎えて感じることなど、貴重なお話を数多くお聞きしました。

３月11日当日は追悼式にも参加し、「とうほくのこよみのよぶね」の開催をお手伝いしながら、被災した方々や東北のこれからに思いを馳せました。

山田町社会福祉協議会、NPO法人たがだ八起プロジェクト様をはじめとした沢山の方々に協力をいただいております。

団体情報
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト
住所　：〒657-8501　兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1　神戸大学地域連携推進本部
MAIL：ku.tohoku@gmail.com
代表　：中村莉央

SNS